



【1】外観正面（北側から）【2】主室天井部の5連アーチ【3】演壇と吹き抜け部を区切る半円アーチと浮彫装飾【4】独立柱の柱頭部【5】階段手摺の装飾



## 特集 峰ヶ丘講堂

# 100年の歴史が宿る場所

今年で築100年を迎えた峰ヶ丘講堂。その歴史や建築的特徴、現在の役割などを詳しく紹介します。

### ■歴史

峰ヶ丘講堂は、宇都宮大学の前身である宇都宮高等農林学校の講堂として大正13（1924）年に竣工しました。講堂に先立ち建設された木造2階建の本館（大正11年、昭和24年焼失）は、現在のUプラザの位置に置かれ、大谷石造の図書館書庫（大正13年）等と共に、庭園（大正15年）を取り囲むように諸施設が配置されました。平成29年に登録有形文化財に登録された同講堂の調査にて、「：旧講堂は、隣接する旧図書館書庫と木材と石材の軟らかい対比で構内をつつみ、美しい景観と歴史的な雰囲気醸し出す」との所見が記されているように、現在のヒストリカルゾーン（※）にキャンパス黎明期の景観を偲ぶ主要な要素となっています。

※ヒストリカルゾーン…峰ヶ丘キャンパス北西部にある、峰ヶ丘講堂や石蔵庭園（フランス式庭園、イギリス式庭園、日本式庭園）とそれらを見渡すUプラザからなる歴史的エリア（裏表紙参照）

### ■建築的特徴

建物は木造2階建、北側の石井街道に面して切妻棧瓦葺屋根の妻面を見せる外観は、両サイドの一段小さな切妻破風、正面中央部に張り出した玄関ポーチをアクセントとしつつも、全体的には凹凸が少なく装飾性が抑えられ、垂直性が強調された軽快な意匠が特徴的です。

内部の講堂主室は正面に演壇を設け、ギャラリーに囲まれた吹き抜け部との境界を半円アーチで区切り、上部に架かる緩やかな木造5連アーチと共に大空間を控えながらも美しく演出しています。

その他、独立柱の柱頭部や階段手摺の幾何学的な装飾等、細部まで丁寧な仕上げられた軽やかで質の高い空間は、大正期に多く建設されたセセッション風の意匠的特徴を示すものであり、また現存する数少ない木造講堂として高い歴史性を有しています。

### 歴史及び建築的特徴の解説

遠藤 康一 講師  
（地域デザイン科学部  
建築都市デザイン学科）

### ■沿革

1924  
大 13

宇都宮高等農林学校の講堂として竣工  
入学式などの式典や講演会、多人数講義などに使用



昭和7年（1932）年頃。宇都宮高等農林開校十周年写真帖より



昭和17（1942）年頃。農学部創立80周年記念誌より

1970  
昭 45

学園紛争により講堂としての使用停止  
学生サークルの部室として利用されることに

2008  
平 20

改修工事着工  
改修を求める多くの要望を受け、本学同窓生を中心とした有志の寄附金等により実現



改修工事の様子

2009  
平 21

改修工事竣工

2010  
平 22

公募により名称を「峰ヶ丘講堂」に決定

登録有形文化財（建造物）に登録

2020  
令 2

外壁改修工事

### ■次の100年を見据えて

平成21（2009）年の改修工事後は、大学の公式行事や学生生活動の他、地域の方々にも講演会や展覧会、コンサート等に利用されています。歴史ある佇まいからテレビドラマや映画の撮影場所としても多く利用されており、2024年度前期に放送されたNHK連続テレビ小説「虎に翼」では、主人公の寅子が入学する明律大学女子部の講堂として撮影が行われました。

峰ヶ丘講堂を含むヒストリカルゾーンは、これまで学内外の多くの方々のご支援に支えられてきました。長い間受け継いできた景観と精神を次の100年へと引き継いでいくため、また、地域の方々からこれまで以上に親しまれるよう、環境整備を行っています。皆様からの温かいご支援を心よりお待ちしております。